

うない通信

国立大学法人 琉球大学 うない研究者支援センター ニュースレター Vol.6 2014年6月発行

新センター長挨拶

琉球大学は、平成24年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の採択を受けて、平成24年11月、男女共同参画室（男女参画室委員会）の下に「琉球大学うない研究者支援センター」を設置しました。本センターは、ジェンダーに関する社会的通念や偏見をなくし、本学の女性研究者がその能力を最大限に発揮できるように職場環境を改善すると共に、仕事（work）と生活（life）の両立を支援する研究環境の整備を行うことをミッションとしています。本センターは、これまで、優れた女性研究者の雇用促進および研究補助員の配置などによる研究活動の活性化を積極的に支援してきました。持続発展的な社会の構築のためには男女共同参画の理念は欠かせません。事業最終年度となる本年度は、特に自然科学系分野における、男女共同参画事業のさらなる推進を目標として取り組みます。



うない研究者支援センター長
小西 照子

「うない」とは、「姉妹」を意味する沖縄の言葉ですが、琉球大学男女共同参画室では、「うない」が、現代の沖縄では、「女性たち」、あるいは女性たちの主体的な結びつきや支え合いという意味を込めて様々な用いられているという点に鑑み、男女がお互いに助け合い、職業生活と家庭生活を両立させていく女性研究者のイメージをこの言葉に託し、女性研究者支援センターの名称を「うない研究者支援センター」としました。「うない」の精神にもとづく協働や連携のしくみを構築し、その輪を広げていくことにより、本センターにおける実践が琉球大学のみならず、地域社会をも啓発していけるように取り組んでいきます。

本事業の推進には、琉球大学の全構成員の皆様のご理解とご協力が必要です。相談、意見や提案等がございましたら、是非、本センターへご連絡下さい。

共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」が始まりました!

うない研究者支援センターでは、本年度前期に、国際沖縄研究所と連携して共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」（月4：14:40-16:10、共通教育棟2号館100教室）を開講します。

本講義では、本学の様々な研究分野の女性研究者や、企業や自治体など諸分野で活躍する女性をロールモデルとして講師に迎え、自らの研究や仕事、キャリアデザイン、結婚や出産、育児、介護などのライフイベントとの両立、そしてこれからの夢について紹介していただきます。女子学生に限らず男子学生にとっても、男女共同参画推進やジェンダーに関する問題、ワーク・ライフ・バランスのあり方など、社会におけるジェンダー意識と自らのキャリア形成との関わりを学ぶ機会となるでしょう。

また、本講義の一部は「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業（文部科学省地＜知＞の拠点整備事業）の一環として、沖縄県内の行政や地元企業で活躍する女性リーダーをお招きし、「キャリアデザインフォーラム 2014」として一般公開します。

※本フォーラムについては、4面をご覧ください。



「キャリアデザインフォーラム 2014」開催のご案内

うない研究者支援センターは「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業（文部科学省地＜知＞の拠点整備事業）の一環として、沖縄県内の行政や地元企業で活躍する女性リーダーをお招きし、「社会」を動かす「うないの力」をテーマに「キャリアデザインフォーラム 2014」を開催します。ぜひ、みなさまご参加ください。なお、当日は託児所を開設いたします。保育をご希望の方は、事前予約が必要ですので、各回の1週間前までに当センターまでご連絡ください。

会場 琉球大学共通教育棟2号館100教室 ※参加費無料、予約不要。
主催 琉球大学 男女共同参画室・うない研究者支援センター



6.9 月 14:40~16:10
「社会貢献と女子力」
大城 玲子氏
沖縄県子ども生活福祉部 子ども福祉統括監



6.30 月 14:40~16:10
「夢へのプロセス ～3つのチャ・チャ・チャ～」
豊川 明佳氏
有限会社 インターリンク沖縄 取締役



6.16 月 14:40~16:10
「アセローラ物語」
並里 哲子氏
農業生産法人株式会社 アセローラフレッシュ 代表取締役



特別講演 Special Lecture
7.14 月 14:40~16:10
使用言語 英語（日本語訳資料を配布予定）
「Women's Empowerment in Science and Technology」
Professor Wah Yun Low
University of Malaya, マレーシア

BOOK 活用ください!

うない文庫 図書コーナー

うない研究者支援センターでは、情報提供の一環として、「図書コーナー」をセンター内に設置しています。また、附属図書館2階情報ラウンジにおいて、「生き方の多様性を応援する“うない文庫”」を常設しています。貸出や所蔵リストについて、詳しくは、当センターWEBサイトからご覧いただけます。

わたしの本 おすすめ 『お父さんもお母さんもわくわくさんになれる!』 *久保田雅人著 *現代書林2004年
●山下通子（うない研究者支援センター）

先日「お母さんと一緒に遊びたいのに!」と泣きながら息子に言われ、日々の生活に追われて、子どもとの時間を作れていなかったことを反省していた時に目に留まった本です。

この本に掲載されているものは、家にあるもので、短時間で簡単に作って遊べるものが紹介されています。作っている時の息子の顔は真剣そのもので、私も一緒に作りながら「こんなに上手にハサミを使えるようになったんだ。」とか、「なかなか絵を描くのが上手になったな。」と子どもの成長を感じることができました。買って来たおもちゃに比べると、形も不恰好で少々貧弱に見えるかもしれませんが、子どもにとっては、世界に一つだけのおもちゃです。出来上がったおもちゃで遊ぶ子どもは、とても目が輝いていてイキイキとした笑顔を見せてくれ思わず私も笑顔になりました。

働いていると、なかなか子どもと一緒に遊ぶ時間がとれないですが、皆さんも週末や夕食後のちょっとした時間に、子どもと同じ目線になっておもちゃ作りを楽しんでみてはいかがでしょうか?



編集後記

4月より新体制となりましたが、今後ともスタッフ一同、女性研究者支援事業の益々の推進に努めて参ります。（そ）当センターのwebサイトでもいろいろな情報を掲載しています。ご利用いただければ幸いです。（ま）



国立大学法人 琉球大学 うない研究者支援センター

University of the Ryukyus
Unai Center for Researcher Support and Development

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 大学本部1階
TEL:098-895-8675 FAX:098-895-8732
E-mail:gender@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
URL:http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/unai/

2014年 2月 5月の主な活動報告

第2回 うないキャリアデザイン・セミナー 平成26年2月19日(水)

「レゴ・ブロックで描くキャリアデザイン」

裾野拡大の一環として、研究職を目指す学部学生と大学院学生を対象に、レゴ・ブロックを使った「レゴ・シリアスプレイ™」のファシリテーターの資格を持つ白井旬氏(NPO法人沖縄人材クラスタ研究会)を講師としてお招きし、第2回うないキャリアデザイン・セミナー「レゴ・ブロックで描くキャリアデザイン」を開催しました。



第2回 ワーク・ライフ・バランス講座 平成26年2月22日(土)

「ボイスワークショップ」

両立支援の一環として、本学で働きながら子育てをしている教職員や学生、留学生を対象に、交流や情報交換をしながら、ワーク・ライフ・バランスについて見直すことを目的とした講座を開講しました。当日は、お子さんも合わせて16名の参加がありました。

第2回目となる今回は、本学附属病院産婦人科に勤務する丹家歩医師と芝居や歌手として活躍する一方、プロフェッショナルホメオパスとして子育て中の親子を支援する関口満紀枝さんを講師としてお招きしました。



第7回 スキルアップセミナー 平成26年3月6日(木)

「英語プレゼンテーション 集中講座」

琉球大学研究者交流施設・50周年記念館にて、スキルアップ支援の一環として、Dr. Jeffrey Robens氏(エダズ 生命科学シニアエディター)を講師に迎え、第7回スキルアップセミナー「英語プレゼンテーション 集中講座」を開催しました。

本セミナーは、国際的な活躍を目指す研究者の英語運用能力の向上を目的として実施し、11名の教員や大学院学生が参加しました。



第3回 男女共同参画トップセミナー 平成26年3月17日(月)

「大学における男女共同参画の取り組みとその目的」

工学部1号館221教室にて、第3回男女共同参画トップセミナーを開催しました。本セミナーは、自然科学系分野の教員を対象に、男女共同参画についての意識改革及び自然科学系分野における女性研究者の採用数の増加に向けた取組を積極的に推進することを目的に企画されました。第3回となる今回は、(独)国立高等専門学校機構 沖縄工業高等専門学校の校長である伊東繁氏を講師としてお招きし、「大学における男女共同参画の取り組みとその目的」と題してご講演いただきました。



第4回 ゆいカフェ 平成26年5月7日(水)

文系総合研究棟2階会議室にて、女性研究者間の情報交換や交流を目的に「第4回 ゆいカフェ」を開催しました。今回は、10名が参加し、昼食をとりながら、特に女性研究者在職比率UPに向けた意見交換を行いました。



あなたのライフイベントをサポートします!

うない研究者支援センターは、ライフイベントをサポートする各種制度の積極的な利用を推進するため、様々な情報発信を行っています。

▼出産・育児・介護等に関する本学の休暇制度「育児・介護支援ガイドブック」より抜粋
平成25年2月現在



育児・介護等支援ガイドブック

育児・介護支援等支援ガイドブックでは、育児や介護を行っているすべての教職員が仕事と家庭との両立が実現できるよう、本学の規則等を紹介しています。当ガイドブックについては、うない研究者支援センターwebサイトの電子ブックをご覧ください。当センターへご連絡いただければ、学内便にて発送いたします。(発送は学内のみ)



ご活用ください! 育児支援情報

うない研究者支援センターwebサイトにて、本学の取得可能な制度や大学近隣地域の子育て支援情報等に関する情報を提供しています。ぜひ、ご活用ください。また、ご要望などございましたら、お気軽に当センターまでご連絡ください。

ゆいネットワークとは

ゆいネットワークとは、女性研究者の研究とライフイベントの両立支援を目的とした、代替教員や研究活動を補助する研究補助員などを登録する人材バンク制度です。たとえば、出産、育児及び介護のために時間が制約される研究者が、研究を補佐する人材を探すような場合に、本ネットワークを利用して研究補助員を探すことができます。また、本制度では、本学に所属している大学院学生などが研究補助員、県内の研究者などが代替教員として登録することができます。

産休・育休取得経験者の声

附属病院 周産母子センター 銘苅 桂子 講師

私が産休・育休をとらせていただいたのは38歳、3人目の出産のときです。琉球大学医学部附属病院産婦人科にて生殖内分泌グループのチーフを任された3年目のころでした。体外受精・胚移植や腹腔鏡手術の件数が増え始め、後輩の育成が十分とは言えず、私が休むと患者さんや後輩医師に迷惑をかけてしまうため、休むなんて考えられない時期でした。私にできることは、休むまでに急ピッチで後輩を育成すること、予定手術症例はすべて終えること、そして可能な限り早く復帰すること!でした。

妊娠35週目に産休・育休に入り、産後8か月には復帰しました。復帰後は2か月間、「育児短時間勤務制度」を利用して、一ヶ月30時間勤務をしましたが、その後はフルタイムとして働いています。心がけたことは、自分から育休をとる後輩医師のモデルになれるように意識すること、どのようにしたらチームで効率的に仕事をこなせるか体制を整えること、皆が同じレベルの仕事ができるように教育に力を注いだことです。チーム全員が女性医師であるためこれから産休をとる可能性が高く、自分の経験を活かし、チーム全体で産休・育休をとる医師の復帰を乗り越えていく体制をとれるようにしていきたいと考えています。

